

# 持続可能な海社会を実現するリノベーション先進都市

和歌山県和歌山市（2019年度選定）

## 1. 地域の特徴と課題及び目標

紀伊半島の北西部に位置し、人口は、356,729人(令和2年国勢調査)。1985年のピークから減少に転じた。年少人口が半分に減少、老年人口は2倍に増加。経済面ではサービス産業の低い労働生産性、社会面ではコミュニティの希薄化、環境面では豊かな環境の未来への継承などが課題となっており、今あるものを生かして価値を高めるべく「持続可能な海社会を実現するリノベーション先進都市」の構築を目指す。

## 2. 関連するゴール



## 3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

「リノベーションまちづくりを核としたまちなかの魅力向上」として、まちなかを中心にこれまで実施してきたリノベーションまちづくりをさらに推進しエリアのプレゼンスを高める。また、「郊外漁村エリアの持続可能な地域づくり」として、少子高齢化や空き家増加が進む郊外漁村エリアにおける大学等と連携した住民主体の地域づくりを進める。さらに「持続可能な都市づくりのための人材育成」として、未来の地域づくりを担う人材に対するSDGsの視点からの人材育成を推進する。

## 4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

- ①花王株式会社等関係団体と連携し、楽しみながら海洋ごみ回収を行う探検ウォークラリー「ウミプラー」を大阪府堺市へ横展開した。
- ②花王株式会社との連携協定が3周年を迎え、その取組の一つとして、海岸に漂着したペットボトルを活用した改質剤を用いて、駅前バスゾーンのアスファルト舗装を施工いただいた。
- ③海の豊かさを学んでもらう「子ども海かいぎ事業」を、希望する小中学生に提供。令和6年3月には、一連の活動で得た気づきや学びを発表する「子ども海かいぎ」を実施。あわせて海に関する講演会及び専門家から子供たちの発表へフィードバックを行うとともに、海洋ごみやアマモトに関する展示ブースを設けた。
- ④和歌山市SDGs推進事業実行委員会で、SDGsアクションを募集し、イルミネーションオブジェ等を通して周知。市民等による投票により上位5組の受賞者が決定。表彰式とピッチを行い、SDGs推進に取り組む方々の発信の場となった。

## 5. 取組推進の工夫

2020年1月、SDGsに取り組む企業や団体のパートナーシップを深め、各々の活動の活性化を目指すとともに、地域におけるSDGsの達成に向けた取組の推進につなげるためのプラットフォームとして「和歌山市SDGs推進ネットワーク」を設立。現在、400を超える団体が加入している。

## 6. 取組成果

- ①大阪府堺市では、指定した色のマイクロプラスチックを制限時間内に拾い集める「色さがし」、ウミプラーの気持ちを考えるワーク、プラスチックの記憶や運命をたどる「海ごみすごろく」等を実施し、参加者の8割以上が満足を示し、学習ポイントを押さえて海ごみ問題を考えるきっかけとなった。
- ②海洋由来のペットボトルをまちなかで見える形にすることで、海洋ごみ問題を自分事に捉えるきっかけづくりができた。
- ③事業に参加した小中学生の海に関する興味や学びが深まるとともに、「子ども海かいぎ」を通じて広く普及・啓発を行うことで、持続可能な海づくりを推進する機運の醸成を図ることができた。来場者アンケートで、5段階で4以上の評価が92.3%と多くの方から好評をいただくとともに、参加校アンケートでは「次年度も参加したい」「教師も学ぶ機会となった」というお声をいただいた。
- ④投票数は3,500票以上、表彰式・ピッチ観覧者は140名と、10代以下から80代以上の幅広い年代の方にSDGsアクションを周知できた。投票者アンケートでは「イルミネーションオブジェをきっかけに投票した」「SDGsは企業が取り組むものと思っていたが、個人でも取り組めると知った」など、これまでSDGsに関心がなかった層にもリーチできた。

## 7. 今後の展開策

海洋ごみという本市のみでは解決できない課題への取組を加速させるため、「ウミプラー」の自走化及び教育プログラム化に向けて改良と普及に努める。駅前バスゾーンのアスファルト舗装施工場所は、循環型社会を目指し、イベント等で活用する。また、和歌山市SDGs推進事業実行委員会では、引き続きSDGsアクションを募集及び周知し、優良事例を表彰することで、SDGs活動のやりがいや新たな参画・連携を創出する。

## 8. 他地域への展開状況（普及効果）

令和5年度は大阪府堺市とともに「ウミプラー」を実施し、横展開できた。